

靈照女の事

靈照女の事

靈照は龐居士の

子なり居士名は

蘊字は道玄と稱す

唐の貞元年中の人

禪學ヲ以て有

名なり當時の大徳

石頭馬祖百霊

則川等との問答今に

傳へらる最モ丹霞

所あると云ふ

ほうこじ

靈照は龐居士の

子なり居士名は

うん どうげん

蘊字は道玄と稱す

ていげん

唐の貞元年中の人

\*貞元二七八五〜八〇五年。

にて禪學ヲ以て有

とうじ だいとく

名なり當時の大徳

\*大徳二徳の高い僧。

せきとう ばそ ひやくれい

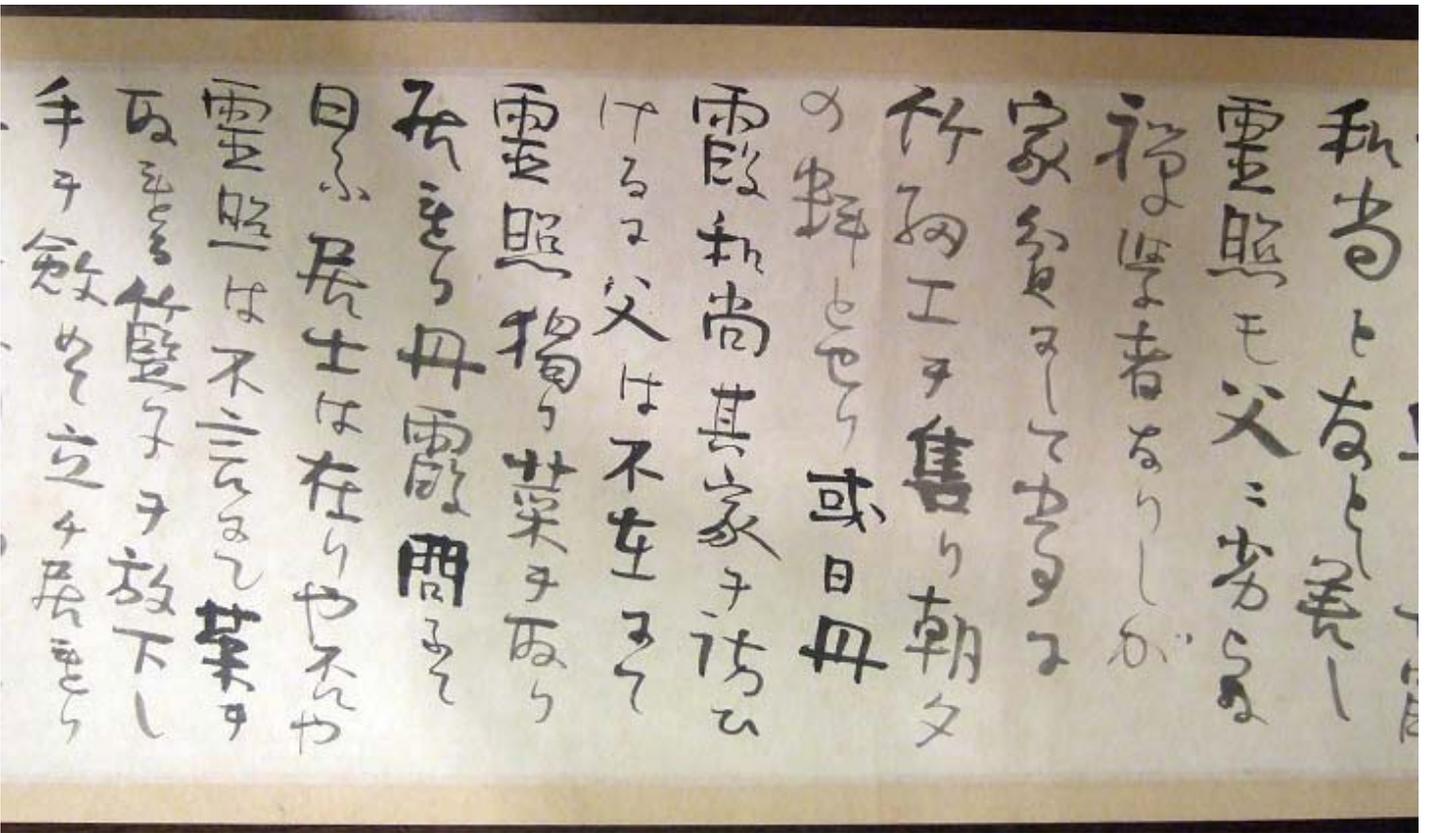
石頭。馬祖。百霊。

そくせん

則川。等との問答 今に

つた たんか

傳へらる 最モ丹霞



おしよ

和尚を友とし善し

靈照モ父ニ劣らぬ

禪學者なりしが

家貧にして常に

竹細工ヲ售り朝夕

の料とせり 或日丹

霞和尚其家を訪ひ

けるに父は不在にて

靈照獨り菜ヲ取り

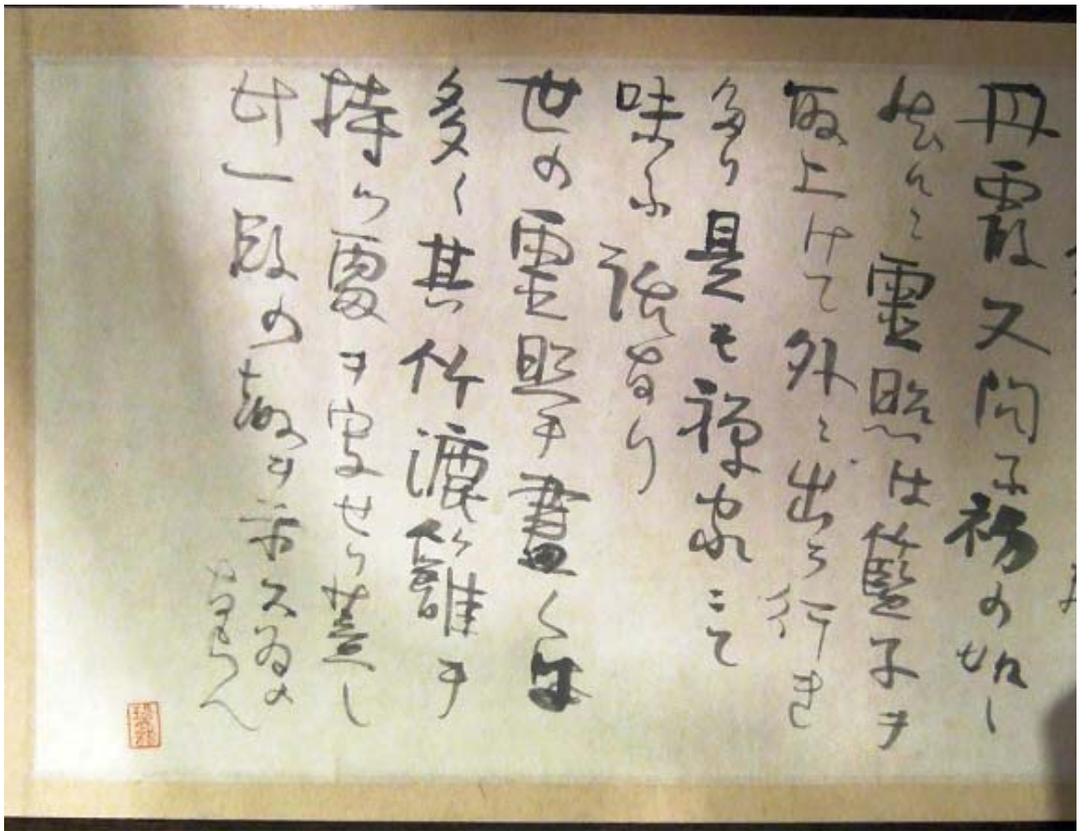
居れり丹霞問ふて

曰ふ居士は在りや否や

靈照は不言にて菜ヲ

取れる籃子ヲ放下し

手ヲ斂めて立ち居れり



丹霞又問う初の如し はじめ ごと

然ルニ靈照は籃子ヲ しか

取上げて外ニ出テ行き

たり是モ禪家ニテ

味ふ話なり

\* 禪家ニテ味ふ話ニ禪の公案。つまり、  
禪で悟りを開くために与えられる先人の  
言葉、教え。

世の靈照ヲ畫くは えが

多く其竹漉籬ヲ さる

\* 漉籬ニ漉籬(さうり)はさるの意。

持ツ處ヲ写せり蓋し けだ

此一段の趣ヲ示ス為メ おもむき

ならん

へきがん

碧翁

ほう  
ほうつんとらげん

\* 龐居士(？～八一五) 龐蘊追玄。

中国、唐代の仏教者。湖南省の人。

ほうそ

禅宗の修行者で、南宗禅の祖馬祖

らに学ぶが、僧にはならず、在家の

こじ

まま修業し、居士(在家の修業者)と

呼ばれた。靈照はその娘。

\* 石頭(七〇〇～七九〇) 姓は、陳、

きせん

名は、希遷。中国、唐代の禅僧。広

東省の人。湖南省の石の上に庵を編

んだため「石頭」と呼ばれた。

ばそ

\* 馬祖(七〇九～七八八) 姓は馬、

名は、道一。中国、唐代の僧。四川

そだるま

省の人。中国禅宗の祖達磨の正統を

継ぎ、新しい南宗禅の祖となったこ

とから馬祖と呼ばれる。平常心が道

である、心が仏であるなど、平明な

言葉で教えを説き、龐蘊、丹霞ら多

くの弟子を育てた。

\* 百靈。則川。どちらも、龐居士

と同時代の禅僧だが、詳細は不明。

たんか

\* 丹霞(七三九～八二四) 名は、

てんねん

天然。馬祖に学び、龐蘊の知人と

して、『龐蘊居士語録』などに登場

する。木の仏像を燃して、偶像の

無意味さを表した「丹霞焼仏」の逸

話(公案)が有名。